

お詫びと訂正

会誌 60 巻 2 号掲載の論文『旧南淡町役場の調査と耐震診断』（著者：渡瀬 誓, Nadia KAMARUDDIN, 西山峰広）に以下のとおり誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

・ 3.5 (2) 採取サンプルの引張試験結果 (p.99 左段) の帯筋および採取していない径の鉄筋の降伏強度の記述に誤りがありました。

〔誤〕 その降伏強度を 240 N/mm<sup>2</sup> とし、診断を行った<sup>2)</sup>。  
 〔正〕 設計書よりその降伏強度を 235.2 N/mm<sup>2</sup> とし、診断を行った。

・ 4.2 保有性能基本指標 E<sub>0</sub> の算定 (p.101 左段) の導入プレストレス力の値に誤りがありました。

〔誤〕 50 000 kgf (= 490 000 N)  
 〔正〕 25 000 kgf (= 245 000 N)

・ 4.2 保有性能基本指標 E<sub>0</sub> の算定 (p.101 右段) の 1 階柱脚部に関する記述に誤りがありました。

〔誤〕 これは 1F 柱の終局時曲げモーメントにより求められる値よりも小さく、この構面の崩壊機構は図 - 18 に示すように、1 階柱脚部の終局時モーメントはフーチングによって決定され、その他の部分の終局時モーメントは梁に形成されたヒンジにより決定される結果となった。

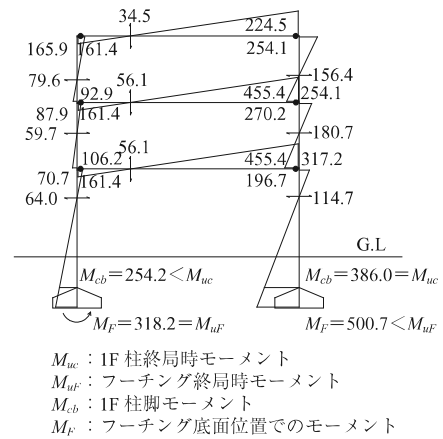
〔正〕 その結果、1 階 Y1 通柱脚部の終局時モーメントはフーチング、Y4 通柱脚部の終局時モーメントは柱の曲げ破壊により決定される結果となった。

・ 4.2 保有性能基本指標 E<sub>0</sub> の算定の表 - 6 (p.101) 及び図 - 18 (p.101) に誤りがありました。

表 - 6 X3 ~ X7 構面 柱終局強度

階	変動軸力の方向	M <sub>u</sub>	Q <sub>u</sub>	M <sub>su</sub>	Q <sub>su</sub>
1	引張	328.1	144.2	550.2	241.8
	圧縮	386.0	169.7	603.6	265.3
2	引張	228.1	165.9	344.6	250.6
	圧縮	272.4	198.1	364.5	265.1
3	引張	197.3	143.5	313.2	227.8
	圧縮	215.0	156.4	320.8	233.3

注) M<sub>u</sub>: 曲げ終局強度 (kNm), Q<sub>u</sub>: 曲げ終局時せん断力 (kN), M<sub>su</sub>: せん断終局時曲げモーメント (kNm), Q<sub>su</sub>: せん断終局強度 (kN)



(曲げモーメント (kNm), せん断力 (kN), ●: 塑性ヒンジ形成箇所)

図 - 18 X3 ~ X7 構面節点モーメント図

・ 4.6 診断結果の加力方向に関する記述 (p.102 右段) に誤りがありました。

〔誤〕 しかし、2 階および 3 階の結果は全く同一であったため、1 階の結果のみ加力方向別に示している。

〔正〕 しかし、3 階の結果は全く同一であったため、1 階および 2 階の結果のみ加力方向別に示している。

・ 4.6 診断結果の I<sub>s</sub> 値の考察に関する記述 (p.102 右段) に誤りがありました。

〔誤〕 桁行方向 1 階の I<sub>s</sub> 値が 0.67 となり I<sub>S0</sub> を 25.6% 下回っている。

〔正〕 桁行方向 1 階の I<sub>s</sub> 値が 0.88 となり I<sub>S0</sub> を 2.2% 下回っている。

・ 4.6 診断結果の C<sub>rs</sub>S<sub>b</sub> 値の考察に関する記述 (p.102 右段) に誤りがありました。

〔誤〕 桁行方向 2 階が 0.35 となり下限値を 22.2% 下回っている。

〔正〕 桁行方向 1 階は 0.35, 2 階は 0.41 となりそれぞれ下限値を 22.2%, 8.9% 下回っている。

・ 4.6 診断結果の表 - 8 (p.102) を修正いたします。

表 - 8a 桁行方向診断結果

階	$\frac{n+1}{n+i}$	(5) 式 $(C_1 + \sum \alpha_j \cdot C_j) \times F_1$						E <sub>01</sub>	(4) 式 $\sqrt{(C_1 \cdot F_1)^2 + (C_2 \cdot F_2)^2 + (C_3 \cdot F_3)^2}$						E <sub>02</sub>	I <sub>s</sub>	C <sub>rs</sub> S <sub>b</sub>
		第 1 グループ		第 2 グループ		第 3 グループ			第 1 グループ		第 2 グループ		第 3 グループ				
		F <sub>1</sub>	C <sub>1</sub>	α <sub>2</sub>	C <sub>2</sub>	α <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>		C <sub>1</sub>	F <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>	F <sub>2</sub>	C <sub>3</sub>	F <sub>3</sub>			
3	0.67	3.2	0.59	1.00	0.18	1.00	0.05	1.75	0.59	3.2	0.18	3.3	0.05	3.5	1.33	1.63	0.82
		3.3	0.18	1.00	0.05	-	-	0.50	0.76	3.2	0.06	3.4	-	-	1.63		
		3.5	0.05	-	-	-	-	0.11	0.03	1.2	0.38	0.87	0.33	0.87	0.01		
2	0.80	3.2	0.38	1.00	0.01	-	-	1.00	0.03	1.2	0.38	0.87	0.33	0.87	0.01	0.93	0.41
		3.4	0.01	-	-	-	-	0.04	0.14	1.2	0.29	3.3	-	-	0.79		
		2.7	0.25	1.00	0.07	1.00	0.02	0.95	0.25	2.7	0.07	3.2	0.02	3.3	0.74		
1	1.00	3.2	0.07	3.3	0.02	-	-	0.30	0.25	2.7	0.07	3.2	0.02	3.3	0.88	0.35	
		3.3	0.02	-	-	-	-	0.07	0.25	2.7	0.09	3.2	-	-	0.76		

表 - 8b 梁間方向診断結果

階	$\frac{n+1}{n+i}$	(5) 式 $(C_1 + \sum \alpha_j \cdot C_j) \times F_1$						E <sub>01</sub>	(4) 式 $\sqrt{(C_1 \cdot F_1)^2 + (C_2 \cdot F_2)^2 + (C_3 \cdot F_3)^2}$						E <sub>02</sub>	I <sub>s</sub>	C <sub>rs</sub> S <sub>b</sub>
		第 1 グループ		第 2 グループ		第 3 グループ			第 1 グループ		第 2 グループ		第 3 グループ				
		F <sub>1</sub>	C <sub>1</sub>	α <sub>2</sub>	C <sub>2</sub>	α <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>		C <sub>1</sub>	F <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>	F <sub>2</sub>	C <sub>3</sub>	F <sub>3</sub>			
3	0.67	2.0	2.11	1.00	0.27	1.00	0.19	3.43	2.11	2.0	0.27	3.2	0.19	3.5	2.91	3.19	2.57
		3.2	0.27	1.00	0.19	-	-	0.98	2.38	2.0	0.19	3.5	-	-	3.21		
		3.5	0.19	-	-	-	-	0.44	1.33	1.3	1.4	0.25	3.0	0.07	3.5		
2 (Y1) (Y4)	0.80	3.0	0.25	1.00	0.07	-	-	0.78	1.33	1.3	1.4	0.25	3.0	0.07	3.5	1.60	1.65
		3.5	0.07	-	-	-	-	0.20	1.48	1.3	1.4	0.17	3.2	-	-	1.60	
		1.4	1.7	0.95	1.00	0.06	1.00	0.09	1.87	0.95	1.4	1.7	0.06	3.2	0.09	3.3	
1 (Y1) (Y4)	1.00	3.2	0.06	1.00	0.09	-	-	0.48	1.01	1.4	1.7	0.09	3.3	-	-	1.43	1.10
		3.3	0.09	-	-	-	-	0.30	1.01	1.4	1.7	0.09	3.3	-	-	1.74	